

「カモシレナイ」と「ヨウダ・ミタイダ」の婉曲用法 —認識的モダリティの類型的相違がもたらす振る舞いの対照性—

蓮 沼 昭 子

要 旨

「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」が主観的述語に後接し、断定緩和や対人配慮の意図で用いられる「婉曲用法」について考察を行った。コーパスで採取された実例を「文末用法」「前置き用法」の2用法に分け観察した結果、2用法のどちらの場合も、「カモシレナイ」に比して「ヨウダ・ミタイダ」の使用は限定的で、聞き手に対する配慮の度合いも相対的に低いものであることが分かった。聞き手の認識を表す文に「カモシレナイ」と「ヨウダ」が後接し互換性が認められる場合、前者は「聞き手の認識に対する話し手の推測」、後者は「聞き手の様子から話し手が受ける印象」を述べるといった本質的な相違を示すが、2形式の振る舞いの対照性は、それぞれが属する「可能性判断」「証拠性判断」という、認識的モダリティの類型的相違に関連づけて説明可能であることを指摘した。

キーワード：認識的モダリティ 婉曲表現 蓋然性 証拠性 配慮表現

1. はじめに

認識的モダリティには、基本的用法からの派生と考えられるレトリカルな用法がある。すなわち、話し手が事態を確実に把握しているにも関わらず、対人的配慮に基づき主張の抑制・断定回避や、品位ある人物としての自己イメージの保全などを意図して、「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」を使用するような場合の用法である。上記の意図で使用された「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」の用法を、ここでは便宜的に「認識的モダリティの婉曲用法」と呼び、これに該当すると思われる実例を観察する。データとしてBCCWJ-NTの「Yahoo! 知恵袋」と「Yahoo! ブログ」における「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」¹⁾の使用例を用い、それぞれが属する認識的モダリティの類型的相違がもたらす振る舞いの対照性を観察することにした。

2. 問題の所在

この節では、認識的モダリティの婉曲用法をめぐる先行研究として、仁田(1992)と宮崎(2002)を紹介し、宮崎(2002)の問題点を指摘したうえで、本稿の課題の範囲を明らかにしておきたい。

仁田(1992)は、婉曲表現についての先駆的研究であるが、そこでは婉曲表現を以下の2つの要件を満たすようなものと捉え、基本的に丁寧さといった伝え方に関わる現象であると説明している。

- ① 話し手は言表事態の成立が真であると認識している。
- ② 言表事態が未だ確認されていないところを有するものとして表現されている。

仁田によれば、婉曲表現の中心をなすのは「ヨウダ」であり、「ラシイ」で該当する例は多くないとされる。また、婉曲表現の特性として、〈対話状況〉でしか用いられず、心内発話や独り言では「ヨウダ」は婉曲を表せず、「徴候のもとでの押し量り」でしかありえないとされる。

宮崎(2002)は、認識的モダリティの体系的記述を目指した研究だが、「ダロウ」が〈婉曲〉用法をもつ2つの場合を指摘している。すなわち、「ダロウ」が〈主観的評価〉²⁾に続く場合、および「と言える」などに続く場合で、(1)(2)がそうした例である。

- (1) (月光で砂に写った自分の影について) その影も短いのがいいだろう。

(宮崎 2002:133)

- (2) これら三つが、自信喪失の言わば外部要因と言えるだろう。これに加えて、「夢」に対する幻滅という内部要因がある。

(藤原正彦『若き数学者のアメリカ』宮崎 2002:136)

(1)は、〈主観的評価〉を表す「いい」が使用されている場合だが、ここでは〈推量〉から主張の強さを抑制する〈婉曲用法〉へと、「ダロウ」の機能に変更が起こっており、その理由は〈主観的評価〉の内容は話し手の中で決まる事実であり、推量の対象とならないからだとされる。

さて、ここで生じる疑問は、(1)(2)における「ダロウ」に、果たして「主張抑制」「断定回避」のニュアンスが本当にあるのかということである。この点については、蓮沼(2015b、2016)で、宮崎(2002)の説明に対する否定的な見解を述べたので、その詳細は前稿に譲ることにしたいが、ここでは、蓮沼(2016)で指摘した現象について一言だけ触れておきたい。すなわち、「ダロウ」とは対

照的に、主観的評価の述語に付加された「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」は婉曲用法をもつが、その成立のしやすさにおいて、両者には相違が認められるという現象である。この現象に対する前稿の観察は、作例に基づく直感的な印象の指摘にとどまっており、事例の観察に基づく分析という課題が残った。本稿の目的は、この残された課題に取り組み、両者の相違をデータに基づき検証することである。

次節では、本稿の目的と深い関連性をもつ先行研究を紹介し、本稿が取り上げる課題との関連性を指摘しておきたい。

3. 先行研究

「カモシレナイ」と「ヨウダ・ミタイダ」は、認識的モダリティの体系において、「蓋然性」「証拠性」という、異なる類型に位置づけられるもので、婉曲用法が派生されるメカニズムも両者では異なっていることが予想される。これらの婉曲用法を分析する場合も、それぞれが属する認識的モダリティの意味的類型³⁾と関連づけて行うのが有効な方法だと考えられる。この節では、本稿の課題の解明に当たり、重要な示唆を与えてくれる先行研究を4つばかり紹介しておきたい。

3.1. 「カモシレナイ」の婉曲用法

「カモシレナイ」の婉曲用法を扱った研究として、平田（2001）、麻生（2002）、黄（2006）、ワンプラディット（2008）、國澤（2013）、山岡（2016）などがある。ここでは、ワンプラディット（2008）、國澤（2013）、山岡（2016）を紹介しておきたい。

3.1.1. ワンプラディット（2008）

ワンプラディット（2008）は、「かもしれない」の用法を2種に分け、それぞれを「かも1」「かも2」と呼んでいる。「かも1」は可能性を表す認識的用法であるのに対し、「かも2」は直接経験に基づいた話し手の評価的判定を表す場合の用法で、断定を控える婉曲用法とされる。（1）（2）における「かも」は、婉曲用法の「かも2」の例である。

（1）母「この服どう？」

娘「ちょっと派手かも」

（2）（新発売の青汁を試飲後）

A「お味、どうですか？」

B「意外とおいしいかも」

3.1.2. 國澤 (2013)

國澤 (2013) は、話し手にとって命題内容が確実か否かにより「カモシレナイ」の用法を「推量用法」と「婉曲用法」に二分し、後者については、平田 (2001)、山岡ほか (2010) を参照し、①〈前置き〉②〈疑似的同意〉③〈間接的表現〉の3種に分類している。①は、命題内容が話し手・聞き手の双方に確実である場合、②は、命題内容が話し手には不確実であるが聞き手には確実である場合に、「～が/けど」の形をとる従属節で用いられる場合、③は、話し手が自分自身の意見や認識を述べる場合に、断定形で言い切れるはずにも関わらず、相手が自分と異なる意見や認識を持つ可能性を想定して間接的に述べる場合の用法である。いずれの場合も、「カモシレナイ」は、複数の可能性を残すことで相手への配慮を表すとされる。

國澤は③の用法に加え、「拡張した婉曲用法」として、話し手にとって自明である感情・感覚表現に「カモシレナイ」が付加された場合の許容度について、世代別調査を行っている。ここでは、その調査結果をやや詳しく紹介しておきたい。

國澤は、以下の仮説を提起したうえで、10代から60代までの各世代30名ずつ、計180名の日本語母語話者に対し、「カモシレナイ」が使用された作例の許容度についてアンケート調査を実施した。

《仮説》話し手が自分の意見や認識を述べる場合、世代が下がるほど相手が異なる意見や認識を持つ可能性があることに配慮して、複数の可能性を残した表現である「カモシレナイ」を使う。

「大きい」「おなかがすいた」「おいしい」「痛い」「嬉しい」など、属性評価や、感覚、感情を表す形容詞の後に「カモシレナイ」が使われた発話の許容度を世代別に数値化した結果、若い世代ほど許容度が高く、世代が上がるほど許容度が下がる傾向があること、また、いずれの世代でも、相手が異なる意見を持っている可能性が想定される場合に許容度が上がり、同意が期待されている文脈では許容度が下がる傾向を指摘している。以下に、「カモシレナイ」の「拡張した婉曲用法」の例を挙げ、その許容度についての調査結果を〔表1〕に示す（場面番号は原文のまま、例文番号は本稿での順番に変更している）。

(3) 場面14: Aは“おなかがすいた”と思っている。

A: おなかがすいた (かもしれない)。

B：じゃあ、何か食べに行く？

- (4) 場面 6：A と B はレストランで同じ料理を食べている。A は料理がおいしいと思った。

A：これおいしい (かもしれない)。

- (5) 場面 7：A と B はレストランで同じ料理を食べている。A は料理がおいしいと思った。

B：これおいしいね。

A：うん、おいしい (かもしれない)。

- (6) 場面 12：B は“痛い”と思っている。

A：怪我、大丈夫？ 痛い？

B：うん、痛い (かもしれない)。

- (7) 場面 19：B は D 高校に合格したことを“嬉しい”と思っている。

A：D 高校に合格したんだって？

B：うん、そうなんだ。嬉しい (かもしれない)。

〔表 1〕「おいしいかも」「痛いかも」「嬉しいかも」の許容度

	全体	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
(3)	35.3%	46.7%	45.0%	48.3%	28.3%	23.3%	20.0%
(4)	24.7%	41.7%	31.7%	28.3%	16.7%	15.0%	15.0%
(5)	16.7%	28.3%	16.7%	15.0%	16.7%	11.7%	11.7%
(6)	13.1%	13.3%	11.7%	20.0%	11.7%	8.3%	13.3%
(7)	11.9%	18.3%	13.3%	5.0%	16.7%	5.0%	13.3%

(3) (4) は、相手が自分と異なる認識をもっていることが想定可能な場面であるため、若い世代では上の世代より許容度が高いが、年齢が高い世代では、自分自身の感情・感覚については断定形で言い切るのが自然であるため、許容度が下がるという。(5) は同意が期待されている文脈のため、そうした期待がない(4) と比べると、すべての世代で許容度が下がっている。(6) (7) は、求められている答えが一つであり、複数の命題内容の可能性を表す「カモシレナイ」の使用は相手の期待を無視することになり、どの世代においても許容度が低くなるとされる。

國澤の分析は、相手との認識の異同、および話し手にとっての認識の自明性という二つの尺度を場面の要素に取り入れた作例を用い、それに対する世代別許容

度の差異を数値的に示している点で、本稿の考察の参考になる。特に若い世代は自分の認識や意見を述べる場合にも、複数の可能性を残した「カモシレナイ」の使用を相対的に好む傾向があるという事実の指摘は、示唆的である。だが、國澤の調査はあくまでも作例における「カモシレナイ」使用の許容度に対する母語話者の意識調査であり、これがそのまま使用実態を示しているとはいえない。本稿では、コーパスにおける使用例を観察し、この点を事例の観察によって検証したいと考える。

3.1.3. 山岡 (2016)

山岡 (2016) は、「カモシレナイ」の用法を、「可能性判断用法」と「対人配慮用法」に二分したうえで、構文、意味構造、言い換え表現などに基づき、それぞれをさらに二分し、①可能性判断用法、②可能性判断用法(低程度推量)、③対人配慮用法、④対人配慮用法(前置き配慮)、の4種を立てている。このうち本稿が考察対象とするのは③④の用法である。③④に属する例を以下に挙げ、解説を加えておく。

③対人配慮用法

(8)「ごめん、君のイヤホンの音、大きいかも。」《改善要求》

(9)「そこ、どいたほうがいいかも。」《忠告》

(10)「このパスタ、すごくおいしいかも。」《主張》

(11)「君のことが、好きかも。」《感情表出》

「対人配慮用法」とは、自らの発話が相手の消極的フェイスを脅かす FTA (Face Threatening Act) となるリスクを回避するために「カモシレナイ」が使用される場合の用法である。例えば (8) (9) は相手の消極的フェイスを脅かす《改善要求》《忠告》の緩和、(10) では、自らの評価が相手と対立する可能性、(11) では自らの告白が受け入れられない場合を念頭に置き、そうしたリスクを回避するために「かも」が使用された例とされる。そして、この場合の「カモシレナイ」は、「～と言わざる得ない」「～感が否めない」「～気がしないでもない」のような「外部二重否定」の構造をもつ表現と同様の婉曲性を有し、話者の知覚、評価、感情など、命題内容の真偽に対し「話者に責任のある事象」について、FTA の緩和という動機のもとに使用されたものが、一定程度以上に慣習化して成立した典型的な配慮表現の一つだとされる。

④対人配慮用法(前置き配慮)

(12)「口うるさいかもしれないけど、君のイヤホンの音、大きいよ。」

「対人配慮用法(前置き配慮)」は、「カモシレナイ」が「～ガ・ケド」など逆接的・

対比的な接続助詞を伴う従属節で使用された場合の用法で、(12)がその例である。従属節で他者の立場への配慮を具体的に示しながら、主節で自己に責任のある主張を行うような場合の用法で、前置きの従属節には「あなたにとっては」「○○（他者）にとっては」を補うことができ、他者領域の「話者に責任の無い事象」を述べ、他者の立場への配慮を示し、主節で「話者に責任の有る事象」を対比的に示す構造をもつとされる⁴⁾。(12)は従属節に「口うるさい」が使用された例だが、この他に「失礼」「腹が立つ」「気がついていない」「余計なお世話」などがこの用法の従属節で使用される述語の例として挙げられている。

なお、山岡によれば、次の(13)のように、従属節が確定した事実を表す場合の例も、「前置き配慮」の例として説明されている。

(13) 君は試合に勝ったかもしれませんが、実力はまだまだだと思ったほうがいい。

(13)では、確定した事実によって相手の立場を一旦肯定したうえで、主節で話者の目的である《助言》という、FTA となりうる発話を緩和している場合で、④に分類可能な例とされている⁵⁾。

山岡(2016)は、「カモシレナイ」の「可能性判断用法」と「対人配慮用法」の用法の派生過程を、それぞれの論理構造の違いや構文の特徴、情報の認知空間の領域と結びつけて考察している点で、本稿の考察にとっても非常に示唆的である。國澤(2013)の観察結果とともに、本稿における考察の参考にしたい。

3.2.「ミタイダ」の婉曲用法

「ミタイダ」の婉曲用法を取り上げた先行研究として、國澤(2008)を紹介しておきたい。國澤は、3.1.2で紹介した國澤(2013)と同様の手法で、文末に用いられた「みたい。」の世代別許容度を調査し、「視点」の観点を取り入れて分析した結果を、次の4点にまとめている。

- ① 命題内容が不確実だと考えられる場合、許容度が高い。
- ② 命題内容が真である場合でも、その情報を伝えることに価値があると考えられる場合には許容度が上がる。
- ③ 話し手自身の感情・感覚を述べる場合、許容度が低い。
- ④ 若い世代では自分自身の感情・感覚を述べる場合であっても、その命題内容が発話時現在のものではない場合は許容度が上がる。これは「視座」と「注視点」を分けて設定することで、話し手自身を観察対象にする傾向があるためだと考えられる。

上記③④の結果を示す例を挙げ、その世代別数値を〔表2〕に示す。

(14) 場面：AはA自身について話しています。

A「＜Bへの言葉。A自身について＞今、コーヒーが飲みたいみたい。」

(15) 場面：AはA自身について話しています。

A「＜Bへの言葉。A自身について＞心配りができる人が好きみたい。」

(16) 場面：Aは過去のA自身について話しています。

A「＜Bへの言葉。A自身について＞あのとき、キスしたかったみたい。」

〔表2〕 話し手の感情・感覚を述べる場合⁶⁾

	(14) ～たいみたい			(15) 好きみたい			(16) ～たかったみたい		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×
全体 (153名)	11.1	12.4	76.5	20.3	11.1	68.6	16.3	11.8	71.9
10代 (33名)	15.2	6.1	78.8	42.4	9.1	48.5	30.3	18.2	51.5
20代 (30名)	6.7	16.7	76.7	16.7	10.0	73.3	10.0	3.3	86.7
30代 (30名)	10.0	13.3	76.7	10.0	10.0	80.0	20.0	16.7	63.3
40代 (30名)	13.3	6.7	80.0	13.3	10.0	76.7	6.7	6.7	86.7
50代以上 (30名)	10.0	20.0	70.0	16.7	16.7	66.7	13.3	13.3	73.3

値% ○言えると思う △判断に迷う ×言えないと思う

國澤の調査は、10代から60代までの日本語母語話者153名から得た回答を分析したもののだが、話し手が直接的に経験する感情・感覚表現への「みたい」の付加は、全体として許容度が低いが、過去の感覚・感情について述べている(16)では、10代の許容度が上がっている。その理由は若い世代は、自分自身を観察対象とする傾向があるからだとされる。

ここで、國澤(2008、2013)による、「カモシレナイ」「ミタイダ」の婉曲用法の調査結果を統合すると、話し手が直接的に経験している感覚・感情は本人にとって確実なものであり、それを婉曲的に表現することは、世代差はあっても、総じて許容されにくいという事実が指摘できる。そして2形式の許容度を比較した場合、「ミタイダ」は「カモシレナイ」よりもいっそう許容度が低い傾向を示すことが見てとれる。

4. 用例分析

この節では、國澤(2008、2013)の調査結果が示唆する上述の事実を、コーパスの実例の観察によって検証する。その具体的な方法としては、感情・感覚・評

価を表す述語が、発話時における話し手の直接経験に基づく判断を表していると解釈できる例に注目し、こうした述語に「カモシレナイ」「ミタイダ」が後接した場合の意味や表現効果を観察する。以下では、このタイプの述語を「主観的述語」⁷⁾と仮称し、これに「カモシレナイ」「ミタイダ」が後接した場合を文型の特徴により「文末用法」と「前置き用法」の2用法に分け、それぞれの用法における2形式の振る舞いを対照させながら観察を行うことにしたい。

4.1. 文末用法

比較的若い世代のくだけた書き言葉での使用状況を把握するために、BCCWJの「Yahoo! 知恵袋」「Yahoo! ブログ」において、主観的述語に「かも」「みたい」が後接し、そこで文が終止する場合の例を対象に観察を行う。

4.1.1. 主観的述語につく「かも」⁸⁾

最初に、以下での観察の範囲を限定しておきたい。コーパスのデータでは、形容詞の「イイ」(出現形は「いい、よい、良い」など)に後続する「かも」の頻度が最も高かったが、その理由は、「イイ」は、単独用法に加え、複合述語として幅広い用法をもつ形容詞だからである。以下の考察では、こうした多機能性を有する複合述語での「イイ」の使用例を除き、これ以外の主観的述語に「かも」が後続する場合の代表例を取り上げて観察を行う⁹⁾。

ここで、結論を先取りして述べれば、主観的述語に「かも」が後続するコーパスの例は、提題表現、条件表現、比較表現などにおける話し手の評価的判断を表していると解釈できるものが多く、発話時に話し手が直接的に経験する感情・感覚の表出として使用されていると解釈できる例はほとんど見当たらない¹⁰⁾。このことを、感情・感覚形容詞や、「V タイ」が使用された例を挙げ観察しておきたい。

(1)(2)は、「好き」「嫌(いや)」「カッコいい」に「かも」が続く例だが、(1)では、他と比較したうえでの自分の好みが見えられている。(2)では2回「かも」が使用されているが、最初の「かも」は、「ガバガバ飲んでいられる」という条件節の帰結部分に用いられている。2番目の「かも」は、「2～3杯飲んで帰る女は」の形で主題化された名詞句について「カッコいい」という属性評価を表しており、いずれも発話時の感情・感覚を直接的に表出するものとは異なる。

(1) MR.CHILDREN の曲の中で何が1番好きですか???

ボレロあたりの情緒不安定な曲が好きかも…。復帰後は、いまいちピ

ンとこないなあ。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (2) ウィスキーを飲む女の人のイメージってどうですか？

松葉。o○むー一口にウィスキーと言っても色々ですから。薄いパーボン水を割りで、ガバガバ飲んでられると、ちょっと嫌かも。アイリをストレートで2〜3杯飲んで帰る女はカッコいいかも、です。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

類例をさらに挙げると、(3)は提題表現、(4)は条件表現で「かも」が使われた例である。

- (3) AM6:00 やばい! 準備しないと・・・風呂はってない!!というわけで、遅刻覚悟で朝から入浴。いや、朝の入浴って気持ち良いかも・・・朝風呂って良いですね。

(Yahoo! ブログ 2008)

- (4) 十月から稽古が始まり作ってきたこの舞台も、とうとう、、泣いても笑ってもあと1回!・・・だったら、思い切り泣きたいかもo(>__<)o

(Yahoo! ブログ 2008)

次の(5)(6)は、提題表現、条件表現、比較表現といった文型の特徴をもたないが、(5)では、「やっぱ」といった心内吟味の過程を標示する副詞、(6)では、「ちょっと」という程度副詞が用いられ、自分の感覚・感情に対し、一定の吟味・反省や限定を加えたうえでの話し手の評価を表している表現であることが分かる。つまり、いずれの場合も、発話時のその場での感情表出とは異なり、一定の反省を経たうえでの話し手の評価について、「そう言えなくもない」「そんな気がしないでもない」といった意味を添えているのがここでの「かも」の働きであるといえる。

- (5) ちと気分を変えて、赤Yでも行ってみるかってことで・・・バサク狩りも慣れてきたもの? でもくらうものはくらうwでもやっぱ眠いかも wとりあえず粘るw はい、限界 ってことで、いつもより早めにお(p 0-)や(p○-)す(p o-)み(p__-)~♪(Yahoo! ブログ 2008)

- (6) [社会人になって5年が経つが、帰りが遅いと自宅から電話がかかってくる25歳の女性の悩み相談への回答]

いいんじゃないですか? かわいい親御さんじゃないですか。「そろそろかかってくるわー」と、笑いをとりましょう。私なんて、終電まで残業していても一度もかかってくるませんでした。ちよつとうらやましいかもー。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

4.1.2. 主観的述語につく「みたい」

主観的述語に「みたい」が続き終止する文は、他者の感覚・感情について、話し手が観察した外見の様子や評価を述べ立てるものがほとんどで、話し手自身の感覚・感情を表現するコーパスの例は極めて少なかった。特に主観的述語に続き「みたい」の形で終止する例は極めて少なかったため、以下では、丁寧体の「みたいです」が続く例も観察対象に加え考察したい。なお、「みたいな」で終止する文は別の機能をもつと考えるため、本稿の考察対象からは外す。

次の(7)～(10)がここに入ると判断された例だが、(7)～(9)は形容詞述語に、(10)は動詞述語に「みたい(です)」が続く例である。いずれも自己の心理状態、生理的感覚を観察対象にし、そこで観察された兆候や様態を客観的な観点から叙述している表現と捉えることが可能な文である。

(7) でも、俗にいう「無呼吸症候群」なのは、旦那だけではないようです。私も、かなりやばいみたい・・・何とかしなくちゃ・・・まず、痩せろ・・・
ってか!! (Yahoo! ブログ 2008)

(8) 最終的に彼のほうからさようならを告げられました。私はそのことに返事をしないで来ました。やっぱりまだ好きみたいです。でももう遅いですよね。 (Yahoo! 知恵袋 2005)

(9) 私の好みの男性は優しい人なんです。けど、男性って怖いでしょう。何されるか怖いし、まだ処女だし、私は本当に可愛いんですよ。良く女優になればって言われるし。男の人は何でキツイことをいうのでしょうか？

今はボーイ・フレンドがいるので良いですが。私の家が旧家なのが嫌みたいです。ちょっと自慢しました。御免なさい。(Yahoo! 知恵袋 2005)

(10) 今眠くてね…薬効いてるみたい☆一つだけ眠くなる成分と目眩がおきる薬があるんですねえ実は昨日昼間暇だったから拓哉キャプテン描いちゃったんですね～ 載せるとしたらファン限定で (Yahoo! ブログ 2008)

(8)(9)は、「好き」「嫌(いや)」¹¹⁾といった、通常は観察対象になりにくい話し手自身の感情に「みたいです」が続く珍しい例だが、こうした場合における「みたいです」の使用は、普通、許容されにくいものである。(8)では、「やっぱり」の使用が、客観的叙述として(8)を解釈するうえでの支えとなっていると考えられる。「やっぱり」は、話し手による内面の吟味・確認という心的操作の過程を標示する語だが、その使用により自分自身の心理状態を観察対象とする文脈が形成されるからである。(9)はそうした標識がなく、解釈が非常に不安定になる例で、話し手が主語であるということは、前後の文脈から辛うじて読

み取ることが可能なものである。

4.2. 前置き用法

コーパスにおいて、主観的述語をとる「カモシレナイ」の前置き用法の例は大量に採取できたのに対し、「ミタイダ」の例は極めて少なかった。そこで、ここでは前置き用法の「ヨウダ」の例を観察対象にし、「カモシレナイ」との対照を試みることにしたい¹²⁾。

4.2.1. 「カモシレナイ」の前置き用法

前置き用法の「カモシレナイ」の用例で一番多かったのは、「カテ違いかもしれないませんが」とそのバリエーションである。こうした例の出現頻度が高いのは、「Yahoo! 知恵袋」をデータに用いているからである。「Yahoo! 知恵袋」は、質問内容によってカテゴリーが細分化されているが、質問のカテゴリーに対する話し手の把握が間違っている可能性を前もって述べ、回答者への配慮を示す場合に使用されるもので、以下の(11)がそうした例である。

- (11) ちょっとカテ違いかもしれないんですけど、質問です。「お食い初め」ってなんですか?? (Yahoo! 知恵袋 2005)

前置き用法の「カモシレナイ」は、山岡(2016)でも指摘されているように、「あなたにとっては」「〇〇(他者)にとっては」を補うことができ、聞き手や第三者の認識・判断に対する話し手の推測的判断を前置きの述べ、他者への配慮を示すものである。以下では、聞き手の認識・判断に対する配慮が表された例を中心に取り上げ観察することにした。ここに属する用法を説明の便宜上、次の3つに分け解説を行う。

- ①話し手の認識に対する前置き
- ②聞き手の認識に対する前置き
- ③話し手の発言に対する前置き

①②の「認識に対する前置き」における「認識」とは、感情・感覚・理解、評価的判断などを広く含む概念で、①は「話し手の認識に対する聞き手の判断」、②は「聞き手の認識に対する話し手の判断」を推測的に述べ、聞き手への配慮を示す用法である。③の「話し手の発言に対する前置き」とは、話し手の発言内容、発言態度、表現方法などの適切性、的確性などに対する聞き手の判断を推測的に述べ、聞き手への配慮を示す用法である。以下、①から順番に例を挙げながら観察を行う。

①話し手の認識に対する前置き

話し手の認識の適切性、的確性についての聞き手の評価を話し手が推測する場合の用法で、先に挙げた(11)もここに入るものである。従属節の述語は「考え過ぎ」「気にし過ぎ」「思い込み」など、自分の認識が適切・的確でないという否定的な意味をもつものが多い。

- (12) ある人といると、すごく落ち着くんです。その人の容姿も性格も好きです。だけどその人は…たぶん私のことを好きではありません。辛いです。思い込みかもしれませんが、その人となにか縁があるような気がするのです。こんなのって思い込みですか？ (Yahoo! 知恵袋 2005)
- (13) また、気が早いかも知れませんが、新型スイフトにスポーツモデル(JWRCスイフトレプリカ)をラインナップに加えて欲しいです！ 勿論、スイスポに関しては現行がかなり気に入ってます！ (Yahoo! 知恵袋 2005)

②聞き手の認識に対する前置き

聞き手の感情・感覚・知識・評価など、聞き手の内面の認知状態に対する話し手の推測を注釈的に述べ、聞き手の私的領域への配慮を表すものである。

- (14) [オークションで千八百円で落札したオムツ5枚組が百円ショップの商品だった]
ご自分が写真を見て納得されて入札されたのであれば、仕方ないのかも…。商品説明で「百均の商品です」と説明が必要だとは思いますが。悔しいかも知れませんが、諦めましょう。 (Yahoo! 知恵袋 2005)
- (15) [精神的に辛いことがあり、食欲がないが、何か問題があるのだろうか]
つらいのはわかりますが、今はよくても後で体調をくずされますよ。しんどいかも知れませんが、頑張ってください。この先まだまだいい事ありますよ！ (Yahoo! 知恵袋 2005)
- (16) [合唱コンクールの練習で男子がまったく声を出さない。男子がやる気になるにはどうしたらいいか]
「取り敢えず」男子にも声をかけて形だけでも一緒に練習する。腹が立つかも知れないが、女子は男子に文句をつけずに、自分のパートを完璧にマスターする。 (Yahoo! 知恵袋 2005)
- (17) PC 初心者です。ばかな質問だとお笑いかも知れませんが、お願いします。 (Yahoo! 知恵袋 2005)
- (18) 次に、ATM を利用して現金で振込みをする方法なのですが、これはち

よっと分かりづらいかもしれませんが、自分が所有している口座を通さずに直接 ATM で振込み相手先の口座に振込みをする方法です。

(Yahoo! ブログ 2008)

- (19) [ホックのブラのフロントホックの使い方についての質問]

説明しにくいかもしれませんが、使い方がわかる人、教えてください。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

③話し手の発言に対する前置き

話し手の発言の情報価値や、発言態度、発言内容、表現方法などの適切性に対する聞き手の評価を予測的に述べ、聞き手への配慮を示す用法である。聞き手から否定的に評価されそうな場合の、自己防衛の意図を含んだ前置きである場合がほとんどである。(20) (21) は話し手の発言態度・様態、(22) (23) は発言内容とその表現方法、(24) は発言の情報価値において、過不足や不適切な点があることを前もって述べ、主節における主張・助言・依頼などがもつ FTA を緩和しようとする話し手の意図を表している。

- (20) [好きな男子との付き合いを母親から禁止されている小6女子の相談]

受験はあなたの人生に関わる事だから、恋愛にかまけていてはダメですよ。おせっかいかもしれませんが、キス以上は絶対しないでね。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (21) [家族が麻薬をしている可能性がある人の質問]

この質問はカテゴリーが少し違うかもしれませんが、ここで始めたので続けさせてください。しつこいかもしれませんが、実際自分の身に起きていることのでかなりの恐怖・不安感を感じているのでお願いします。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (22) [質問しようとしたら、忙しいので後で声をかけると言われたが、実は、雑談していたことが後で分かった]

どうもこういった態度は「腫れ物に触らぬよう」という誤解を受けかねませんから。ちょっと言い過ぎかもしれませんが、身体障害者の方だからといって、無条件に席を譲るような傲慢さがあります。

(Yahoo! ブログ 2008)

- (23) たとえば違うかもしれませんが、株を買っただけのライブドアには文句言うくせに、突然知らない役人が会社の重要なポストに天下りしてきたら何も言わないのですか？ 日本は、おかしくありませんか？

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (24) [航空会社に預けた荷物が返ってこない。どういう対処をするといいか]
海外旅行保険では「寄託手荷物遅延特約」ってのが付けられます。機内預けにした荷物が遅れたときに、現地で必要なものを買った費用が後で請求できるってやつです。今回は参考にならないかもしれませんが、次回以降、特約付けとくといいですよ。百円か二百円くらいしかかかりませんので…。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

4.2.2. 「ヨウダ」の前置き用法

「ヨウダ」の前置き用法は、「カモシレナイ」に比して用法のバリエーションが少なく、大別すると、次の2用法にまとめられる。

- ①話し手の発言に対する前置き
- ②聞き手領域の情報に対する前置き

①話し手の発言に対する前置き

話し手の発言内容や様態が不適切な性質をもつことを前置きの述べ、FTAの緩和を行う用法である。従属節には、「くどい」「何度も言う」「細かいことを言う」「変なことを言う」「矛盾する」など、発言回数が過度であったり、発言内容が不適切であるといったことを述べるものや、「きつい」「冷たい」「酷だ」「残酷なことを言う」「辛いことを言う」「夢を壊す」など、発言内容が聞き手の内面を脅かす要素をもっていることを述べる表現が使用される。以下に4例挙げておく。

- (25) [一度浮気した人を許せるか？ 許すということと、諦めるということは違うか]

許せないですよ！（中略）だいたい時間が経った今となっては乗り越えるべき夫婦の壁だったのかな？と前向きに考えてます。でもクドいようですが、許してなんかいませんよ！

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (26) [すごく好きな人とつきあっても、とたんに冷めてしまう。長く続けるコツを教えてください]

それは恋愛ではなく、単なる物欲でしょう。ゲームを楽しんでいるとしたか言えないですね。何か幼少期にあなたの気付かないトラウマがあるのかもしれないですね。きついようですが、これは自分で治そうと思っても治る物ではないと思います。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

- (27) [会社都合の退職を促す場合、何ヶ月前に本人に知らせなければいけない]

か?]

人事課の者です。細かい事を言うようですが、厳密に言えば「三十日前」です。十月三十一日付解雇（会社都合の退職＝解雇です）なら、三十日前の十月1日がタイムリミットです。（Yahoo! 知恵袋 2005）

- (28) [失恋して落ち込んでいる友達の力になってあげるにはどうしたらいいか?]

時間がお薬。大好きな親友に慰めてもらっても、結局傷はいえません。残酷なこと言うようだけど、だって彼女が愛したのは貴方じゃないわけだし。傷を治すのは彼女自身と時間ですから、貴方も“どうにかしなくちゃ”と気張らないで。普通に接して、ちょっと気晴らしにいつもよりにぎやかな所にでも誘ってみてはいかがかな？（Yahoo! 知恵袋 2005）

②聞き手領域の情報に対する前置き

神尾（1990:32）において「話し手のなわ張り」の「外」かつ「聞き手のなわ張り」の「内」の情報（Cの場合）に該当する場合の用法である¹³⁾。聞き手の心理状態や個人情報、聞き手の領域に属する情報であり、日本語では無標の形で断定するのは不適切である。こうした場合、「ヨウダ」は、外見の観察や言語情報を証拠に「そのような様子である」といった形で、聞き手の私的領域の情報の断定を回避し、聞き手への配慮を表す働きをもつ¹⁴⁾。

採取された用例の従属節の述語には、「気にしている」「心配している」「わかっている」「ショックを受けている」「～と思っている」など、動詞のテイル形とその尊敬形が使用された例が多かった¹⁵⁾。以下に、ここに属する代表例を2例だけ挙げておく。どちらにも動詞のテイル形の尊敬形が使用され、聞き手の私的領域の情報を客観的に叙述する表現で「ヨウダ」が使用されており、これらが感情・感覚を表出する表現とは大きく異なるものであることが分かる。

- (29) [家の購入に悩んでいる25歳主婦の相談。地震で家が全壊してローンだけ残ったらどうしようかなど不安がある]

マイホームを持つ気があるなら、若いうちからお金を貯めとけば、後が楽です。買いたいときに買えますから。あと、地震を気にされているようですが、気休めにでも聞いてください。きちんと建てた新築が、地震のゆれ自体で倒壊する事は稀です。（Yahoo! 知恵袋 2005）

- (30) [転勤で半年前から千葉県に住んでいるが、以前住んでいた函館の地方税はもう少し安かったような気がする。県・市町村によって金額が違うのか、

それとも所得によって違うのか]

住民税は全国同じです。前年分の所得から各種控除を差し引き、残った分に税率を掛けます。(この他に均等割四千円をプラス)半年前から千葉県に住んでおられるようですが十六年度分の税金は函館からの課税のはずです。⁹ (Yahoo! 知恵袋 2005)

4.2.3. 前置き用法における「カモシレナイ」と「ヨウダ」の相違

4.2.1、4.2.2 で観察した 2 形式の用法の対応関係を表に整理しておこう。

【表 3】「カモシレナイ」「ヨウダ」の前置き用法の互換性

カモシレナイ	ヨウダ
①話し手の認識に対する前置き	×
②聞き手の認識に対する前置き	× ¹⁶⁾
③話し手の発言に対する前置き	△

× 互換性がない △部分的に互換性が認められるが用法は異なる

「カモシレナイ」の 3 用法を基準にして、それぞれを「ヨウダ」で言い換えてみると、③「話し手の発言に対する前置き」の用法においてのみ、言い換えが可能なケースが認められる。この点を例文によって観察しておこう。いずれも元の文の発話状況に大きな変更を加えないという読みでの容認判断である。

(31) 考えすぎ かもしれません／*ナヨウデス が、私に何かいい知恵をください。 (①)

(32) 悔しい かもしれません／*ヨウデス が、諦めましょう。 (②)

(33) しつこい かもしれません／ヨウデス が、回答よろしく願います。 (③)

上の例では、(33)すなわち③「話し手の発言に対する前置き」の用法の例のみが、「ヨウダ」での言い換えが可能だと判断される (ただし用法は異なる)。なお、③の用法ならどの例でも互換性をもつわけではなく、次の例の「ヨウダ」を「カモシレナイ」で言い換えることはできない。

(34) 残酷なこと言う ようだ／*カモシレナイ けど、彼女が愛したのは貴方じゃないわけだし。

(35) 細かい事を言う ようです／*カモシレマセン が、厳密に言えば「三十日前」です。

以上の観察結果を踏まえ、次節では③「話し手の発言に対する前置き」の用法において「カモシレナイ」と「ヨウダ」が互換性をもつ場合の例を観察し、互換性が成立する理由や、その場合の用法の相違を観察することにしたい。

5. 婉曲用法における「カモシレナイ」と「ヨウダ・ミタイダ」の対照性

「カモシレナイ」と「ヨウダ」が互換的に使用可能と判断できる例を以下に挙げる。

(1) しつこい かもしれませんが／ようです が、回答よろしくをお願いします。

(2) くどい かもしれませんが／ようです が、許してなんかいませんよ。

(3) おせっかい かもしれませんが／なようです が、キス以上は絶対しないでね。

(4) ちょっと言い過ぎ かもしれませんが／のようです が、あなたは傲慢です。

ここで2形式の間の用法の相違を、例文(1)を用いて解説することにしよう。

まず、「しつこいかもしれませんが」の意味は、聞き手にとって話し手の発言が「しつこい」と感じられる可能性があるという意味である。つまり、聞き手における認識のあり方を推測的に述べているわけである。一方、「しつこいようです」の意味は、話し手の発言が聞き手に「しつこい」印象を与える要素をもっていること述べるもので、話し手はそのことを自覚したうえで、自分の発言の前置きに使用している。つまり、「ヨウダ」が対象としているのは、発言に随伴する様態が聞き手に与えそうな印象についての話し手自身の評価の判断である。自分が現に「しつこい」性質を帯びた発言を行っていることを承知のうえで予防線を張り、FTAとなりうる発言の前置きに使用されるのが、(1)における「ヨウダ」の働きである。

(2)～(4)の場合も(1)と同様の説明が可能で、「カモシレナイ」は、「話し手の発言に対する聞き手の評価」、すなわち「くどい／おせっかい／言い過ぎ」といった否定的評価を推測的に述べ、聞き手の心情に対する配慮を表している。一方「ヨウダ」は、「話し手の発言が聞き手に与える印象」を予告的に述べ、不適切な性質をもつ発言であることを承知で行う発言の前置きに使用されている。聞き手に対する丁寧さ・配慮の度合いを比較した場合、「ヨウダ」は「カモシレナイ」に比して、相対的にその程度が低く感じられる。その理由は、「ヨウダ」の前置きは、聞き手に対する見せかけの配慮を表すにとどまり、実際には話し手の体面の保持や、主張・指示といった自己の発言の効果的伝達を意図して用いられているという点に求められる。つまり、ここでの「ヨウダ」は、言語の戦略的

使用がレトリカルなパターンとして定型化した場合の用法と捉えることが可能である。

ここで、(1)～(4)で「カモシレナイ」と「ヨウダ」に互換性が認められる理由について考えておきたい。その理由は、発言という行動がもつ特性と、述語の意味特性から説明可能である。「しつこい／くどい／おせっかいだ／言い過ぎだ」は、いずれも人物の行動や属性に対する主観的評価を表す述語だが、発言行動においては、これらは「話し手の発言内容・発言態度に対する聞き手の評価」をめぐる話し手の推測を表すことが可能なばかりでなく、「話し手の発言の様態が聞き手に与える印象」の記述としても使用可能な述語である。これらの述語に「カモシレナイ」が後接する場合は、前者の意図が表され、「ヨウダ」が後接する場合は、後者の意図が表されることになる。「ヨウダ」は通常、話し手が直接経験する感覚・感情を表す述語には使用されにくいものだが、発言行動に随伴する話し手の発言の様態は、話し手自身が自覚できるものであると同時に、発言の場において聞き手が観察することが可能なものである。(1)～(4)で主観的評価を表す述語の後に「ヨウダ」が使用できるのはそのためである。

一方、外部からの観察では知りえない聞き手内部の認識に対しては、「カモシレナイ」は使用できても、「ヨウダ」の使用は不可能である。以下の(5)(6)は、このことを示す好対照の例である。

(5) 考えすぎ かもしれませんが／*なようです が、私にいい知恵をください。

(6) しんどい かもしれませんが／ようです が、頑張ってください。

(5)は、話し手の内面に対する聞き手の判断といった、外部からの観察が不可能な事態のため、「ヨウダ」を使用することはできない。一方、(6)の「しんどい」は、「聞き手の内面に対する話し手の推測」と「聞き手の様子が話し手に与える印象」の、どちらの記述としても使用可能な述語であり、ここでは臨時的に「カモシレナイ」と「ヨウダ」に互換性が成立しているかのように見える。しかし、それぞれは全く別の用法であり、しかも「ヨウダ」で言い換えた例は待遇的に必ずしも適切とはいえず、本稿が観察対象としたコーパスの例でも、こうした「ヨウダ」の使用例は発見されていない¹⁷⁾。

6. まとめ

最後に本稿の考察結果を箇条書きにまとめたうえで、今後取り組むべき課題を掲げ本稿を締めくくりにしたい。

1. 「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」は、発話時に話し手が直接的に経験する感覚・感情を表す述語（＝主観的述語）に後接し、断定緩和・主張抑制や、自己保全の意図を表す婉曲用法をもつ。
2. 文末用法の「かも」は、主観的述語に後接し、「そう言えなくもない」「そんな気がしないでもない」といった意味を添え、感情表出を演述的な表現に変え、断定を緩和する働きをもつ。
3. 文末用法の「みたい（です）」は、主観的述語に後接して、観察対象が「そのような様子だ」といった意味を添える。通常、話し手自らの感情・感覚は観察対象になりにくいいため、この用法での「みたい（です）」の使用は「かも」に比して限定的である。
4. 「カモシレナイ」「ヨウダ・ミタイダ」は、接続助詞「ガ・ケド」などを伴う従属節の述語に後接する前置き用法をもつ。
5. 前置き用法の「カモシレナイ」は、①話し手の認識に対する前置き、②聞き手の認識に対する前置き、③話し手の発言に対する前置き、の3用法をもつ。
6. 用法①は「話し手の認識に対する聞き手の判断」、用法②は「聞き手の認識に対する話し手の判断」をそれぞれ推測的に述べ、聞き手の認知状態に対する配慮を表す。
7. 用法③は、話し手の発言内容・発言態度に不適切な要素が認められるような場合、それに対する聞き手の評価を推測的に述べ、FTA となりうる発言を行う際の聞き手への配慮を表す。
8. 「ヨウダ」には、「カモシレナイ」の前置き用法③と互換性をもつ用法がある。発言内容・発言態度が不適切な要素を伴うものであることを承知したうえで、自分の発言が聞き手に与える印象を予告的に述べる用法である。聞き手に対する配慮よりも、自己保全の意図が優先する、言語の戦略的使用において発達した用法である。
9. 前置き用法③における「カモシレナイ」と「ヨウダ」の違いは、前者が「話し手の発言に対する聞き手の評価」を推測的に述べるものであるのに対し、後者は「話し手の発言が聞き手に与える印象」を予告的に述べるものだという点である。こうした相違があるため、2形式はいつでも互換性をもつわけではない。
10. 聞き手の認識を表す文に「カモシレナイ」と「ヨウダ」が後接し互換性をもつ場合（例「しんどいかモシレナイ／ヨウダ」）、前者は「聞き手の認識

に対する話し手の推測」を表すのに対し、後者は「聞き手の様子が話し手に与える印象」を表す。「カモシレナイ」を使用した場合は、実際は推測と異なる可能性が含意されるが、「ヨウダ」はそうした含意をもたず、聞き手の私的領域に言及するという意味でFTAになりうる要素をもつため、婉曲表現としてはほとんど使用されない。

11. 婉曲用法における「カモシレナイ」「ヨウダ」の振る舞いの相違は、それぞれが属する「可能性判断」「証拠性判断」という、認識的モダリティの類型的相違がもつ対照性と関連づけて説明可能である。

今後の課題は、対面的なやりとりの自然談話のデータにおける認識的モダリティの婉曲用法の観察と分析である。本稿が使用したデータは、くだけた話し言葉のスタイルを反映しているとはいえ、所詮は文字言語のデータであり、それに起因する用法の偏りと分析の限界は認めざるを得ない。本稿のようなテーマの分析には、対面的な場面における音声言語の観察が不可欠である。この課題については、対面場面の音声文字化された国会会議録のデータを用いて、本稿の補完を試みる予定である。使用したデータの相違がもたらす用法の違いなど、そこで改めて検討したいと考えている。

注

- 1) 本稿では、その形式の代表形であるレンマ（見出し項目）を片仮名表記で、その具体的な出現形を平仮名表記で示す。
- 2) 宮崎は、〈主観的な評価〉を表す述語の例として「面白い、くだらない、素晴らしい、美しい、頼もしい、真面目だ、勤勉だ、哀れだ、立派だ、傲慢だ、優れている、変わっている」などの形容詞や、「ひどすぎる、ひ弱すぎる、高すぎる」など、過度の意を表す派生語を挙げている。これらの無標形式を述語とする文は、通常「きっと」などによって確信度を加えることができず、対象を話し手の価値基準によって主観的に評価する意味をもつものである。後者の過度の意を表す語を述語とする文は、必ず〈主観的な評価〉の意味となるとされる。
- 3) 認識的モダリティの意味的類型とそれぞれに属する形式は、以下のように整理可能である。(cf. 日本語記述文法研究会編 2003、蓮沼 2015a)

意味的類型			形 式
認 識 的 モ ダ リ テ イ	推 量		ダロウ
	蓋 然 性	可能性	カモシレナイ
		必然性	ニチガイナイ ハズダ
	証 拠 性	観 察	ヨウダ・ミタイダ
		推 定	ラシイ
		伝 聞	ソウダ

- 4) 山岡は、④「対人配慮用法（前置き配慮）」の用法の説明をする際に、「他者空間」と「自己空間」という認知空間の別を立て、「他者空間を導入して他者領域（話者に責任のない事象）への配慮」示す従属節と、「自己空間として自己の主張（責任の有る事象）」を行う主節が、接続助詞のガ、ケドなどで対比的に示される構造をもつものとして、この用法の説明を行っている。
- 5) (13) は、いわゆる「譲歩」の用法に入る例だが、これを(12)と一括りに扱うことの妥当性は、なお検討の余地があるように思われる。この点については機会を改めて考察したい。
- 6) 國澤（2008）の表1を参照。本稿の例文順に基づき列の配置を変更し、入力ミスと思われる数値を修正した。
- 7) 本稿が観察対象とする述語は、注2で紹介した宮崎（2002）の〈主観的な評価〉の述語にも重なるが、それより広い範囲の述語を念頭においている。例えば「こわい、嬉しい、悲しい、好きだ、嫌いだ、欲しい」など情意・願望を表す「情意形容詞」、「痛い、かゆい、苦しい」など生理的感觉を表す「感覚形容詞」、願望を表す「動詞＋タイ」構文、「腹が立つ」「～気／感じがする」など話者の発話時の感情を表出する「感情表出動詞」、「お腹が空いた、疲れた」など過去時制辞が使用される「感情変化動詞」など、品詞的には形容詞・動詞の双方に亘る。これらは山岡（2000）において、話者の現在の感情状態（情意・感覚・思考）を直接的に言語化する文機能である〈感情表出〉を具現する述語として挙げられているものである（上記の述語の例および分類名も山岡（2000）に基づく）。本稿では、以上の述語に加え、いわゆる「属性形容詞」が話し手の発話時の評価を表していると判断される場合も、観察対象に含める。
- 8) 本稿では「カモシレナイ」と「ノカモシレナイ」は別の用法と考えるため、「ノ」を伴わない文末の「かも」のみを考察の対象とする。前置き用法の場合も同様である。なお、「ヨウダ・ミタイダ」はそもそも「ノ」を前接しないため、こうした限定を必要としない。
- 9) 「イイ」を構成要素にもつ複合述語としては、「～方ガイイ」「～ノガイイ」「～バ／タラ／トイイ」「～テモイイ」などがあり、これらは「助言」「忠告」「勧め」「許可」「不

必要」といった多様な発話意図を表す。これらに「かも」が後続する頻度が高いのは、上記の発話行為は、聞き手が行うべき行為に対する話し手の指示・評価を表すという点で、本来的に FTA の要素を含んでいるからである。「かも」は、「どちらかといえば、そう言えなくもない／そんな気がしないでもない」といった意味で、断定を緩和し聞き手に対する配慮を示す用法をもつため、上記の表現で使用頻度が高くなるのも肯ける。なお、「イイ」を構成要素にもつ複合述語や、評価のモダリティ全体の体系を整理した研究として、高梨（2010）がある。

- 10) 感情・感覚述語に「かも」が付加した場合の文機能は、無標の場合に具現される〈表出〉とは異なり、自分の感情・感覚についての話し手の評価的判断を述べ立てる〈演述〉に文の機能を変えていると捉えるのが適切だと考える。
- 11) 「好きだ」（および「嫌いだ」）は、山岡（2000）の「情意形容詞」の下位分類において、一人称経験者格を主題とする〈情意表出〉と、1 人称以外の経験者格を主題とする〈属性叙述〉の両方に使用可能な「属性的情意形容詞」に分類され、特別な位置を与えられている（ただし、「いやだ」は〈属性叙述〉となりえず、〈情意表出〉を表す「状態的情意形容詞」とされる）。八亀（2008）においても、「すきな」「きらいな」は、時間的限定性のない「特性形容詞」のうちの、話し手の恒常的な好悪の評価が前面化する B グループに位置づけられ、A グループの特性形容詞（いわゆる「属性形容詞」の大半）とは別扱いされている。
- 12) 「ミタイダ」は「ヨウダ」のくだけた文体的変種と説明されることが多いが、文法的振る舞いや用法の上での相違がある。この点の詳細については、森山（1995）、日本語記述文法研究会編（2003）、大曾（2009）が参考になる。
- 13) 主文末では「ラシイね」「ヨウダね」のような「間接ね形」の使用が義務的となるケースであるが、前置き用法の「ヨウダ」は、従属節内部で使用されるため、「ね」の使用は不可能であり、C の場合であっても「ね」を伴わない「～ヨウダガ・ケド」が用いられることになる。
- 14) 本稿のデータは、インターネット上の文字データのため、この場合の「ヨウダ」は、前文脈の情報を証拠に、そこから窺われる聞き手の内面の状態や個人的状況を推測的に述べる形で使用されている。
- 15) 認識のモダリティがとる動詞のテンス・アスペクト形式の分布について、宮崎（2014）に興味深い事実の指摘がある。『新潮文庫の 100 冊』に収録された日本の作品を用い調査した結果、A グループの「だろう・かもしれない・にちがいない」と、B グループの「ようだ・らしい・そうだ」の間に分布傾向の違いが見られた。A グループでは「スル」形式の比率が高いのに対し、B グループでは「シタ」「シテイル」の比率が高

い。こうした分布の相違は、知識・経験に基づく推論を表す A グループと、知覚や言語的証拠（に基づく推論）を表す B グループという、認識のモダリティの分類と事象のテンスが相関する現象として説明されている。なお、A グループが「のだろう」「のかもしれない」「のにちがいない」の形式をとった場合は、B グループと同様の分布傾向を示すという宮崎の指摘も非常に示唆的である。本稿で「ノカモシレナイ」を考察の対象外にしている理由の一つも、この点にある。

- 16) この場合については、5 節の例文（6）に対する説明と、注 17）を参照されたい。
- 17) （6）の「ヨウダ」は、「聞き手の外見に対する話し手の印象」を表しており、「カモシレナイ」の②「聞き手の認識に対する前置き」用法とは本質的に異なる。また、ここでの「ヨウダ」は、聞き手の私的領域について言及を行うという点で、FTA の要素をもつため、社会的上位の聞き手に対する使用は不適切である。一方「カモシレナイ」ではそうした不適切さは生じにくい。

参考文献

- 麻生夕美（2002）「推量表現『かもしれない』が婉曲表現として使用される際の機能分類について—日本語教育の立場から—」『北條淳子先生古稀記念論集』1 - 22 早稲田大学日本語教育センター初級日本語教科書研究会
- 大鹿薫久（1995）「本体把握—『らしい』の説—」宮地裕・敦子先生古稀記念論文集刊行会編『宮地裕・敦子先生古稀記念論文集 日本語の研究』527-548 明治書院
- 大曾美恵子（2008）「日常会話における『みたいだ』『ようだ』—名大会話コーパスに基づく考察—」『第 20 回日本語教育連絡会議論文集』20:81-86 日本語教育連絡会議事務局〈<http://www.nier.go.jp/saka/pdf/N20015081.pdf>〉
- 神尾昭雄（1990）『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析—』大修館書店
- 國澤里美（2008）「認識のモダリティ形式『ミタイ（ダ）』について—視点の観点から—」『ことばの科学』21:171-182 名古屋大学言語文化研究会
- 國澤里美（2013）「語用論の観点から見た認識のモダリティ形式『カモシレナイ』について」『言葉の文化』14:1-17 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語日本文化専攻
- 黄 鈺涵（2004）「日本語教育における『ようだ』の婉曲表現としての機能分類について」『早稲田大学日本語教育研究』5:155-167
- 黄 鈺涵（2006）「『かもしれない』の婉曲表現としての機能分類について」『日本語教育研究』51:59-67 言語文化研究所
- 高梨信乃（2010）『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究—』くろしお出版
- 仁田義雄（1992）「判断から発話・伝達へ—伝聞・婉曲の表現を中心に—」『日本語教育』

77:1-13 日本語教育学会

日本語記述文法研究会編（2003）『現代日本語文法 4 第8部モダリティ』くろしお出版

蓮沼昭子（2006）「譲歩の談話と認識のモダリティ―『のではないか』はなぜ譲歩文と共起しないのか―」上田功・野田尚史編『言外と言内の交流分野 小泉保博士傘寿記念論文集』455-469 大学書林

蓮沼昭子（2015a）「終助詞『さ』の本質的機能―認識のモダリティとの共起関係に着目して―」『日本語日本文学』25:1-27 創価大学日本語日文学会

蓮沼昭子（2015b）「『であろう』は婉曲表現か―客観的真理追究型テキストにおける使用を中心に―」『日本語教育連絡会議論文集』27:18-29 日本語教育連絡会議

蓮沼昭子（2016）「認識のモダリティの婉曲用法―「ダロウ」はなぜ婉曲用法をもちにくいのか―」『日本語日本文学』26:1-26 創価大学日本語日文学会
<<http://hdl.handle.net/10911/4555>>

樋口文彦（2001）「形容詞の評価的な意味」『ことばの科学 10』43-66 むぎ書房

平田真美（2001）「『カモシレナイ』の意味―モダリティと語用論の接点を探る―」『日本語教育』108:60-68 日本語教育学会

宮崎和人（2002）「第4章 認識のモダリティ」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『モダリティ』（新日本語文法選書 4）121-171 くろしお出版

宮崎和人（2014）「認識のモダリティの研究をめぐって」『言語とコミュニケーション』79-105（岡山大学文学部プロジェクト研究報告書 22）

森山卓郎（1995）「推量・比喩比況・例示―『よう／みたい』の多義性をめぐって―」宮地裕・敦子先生古稀記念論文集刊行会編『宮地裕・敦子先生古稀記念論文集 日本語の研究』493-526 明治書院

山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』（日本語研究叢書 13 Frontier Series）くろしお出版

山岡政紀（2016）「『カモシレナイ』における可能性判断と対人配慮」小野正樹・李奇楠編『言語の主観性：認知とボライトネスの接点』133-150 くろしお出版

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門―』明治書院

八亀裕美（2003）「形容詞の評価的意味と形容詞分類」『阪大日本語研究』15:13-40 大阪大学文学研究科

八亀裕美（2008）『日本語形容詞の記述的研究―類型論的視点から―』明治書院

ワンブラディット・アバサラ・キク（2008）「可能性をなくした『かもしれない』」『京都大学言語学研究』27:189-202 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

調査資料出典

国立国語研究所『現代日本語書きことば均衡コーパス』（通常版）（BCCWJ-NT）

〈<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>〉

（はすぬま・あきこ、創価大学文学部教授）